

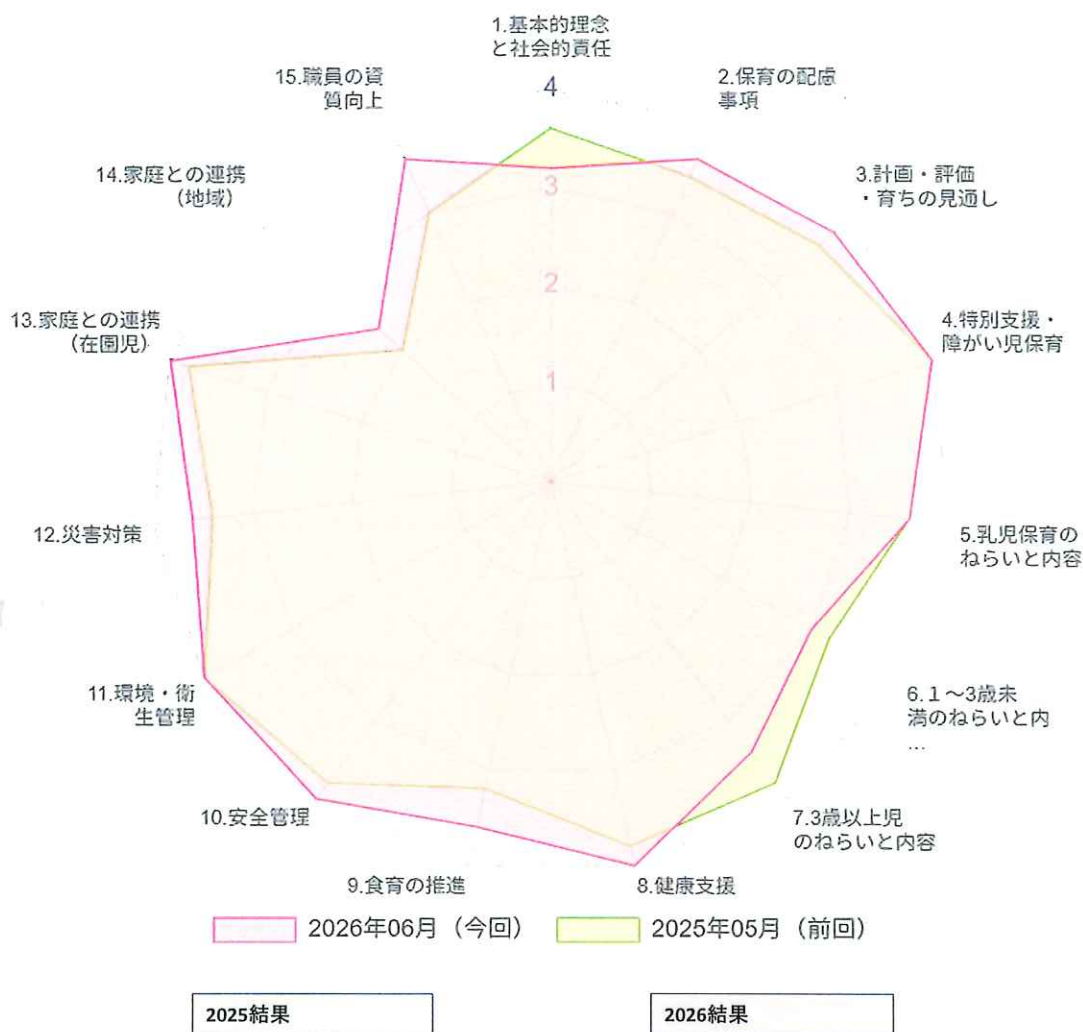
No.	評価項目	スコア	所見・取り組み状況
1	基本理念と社会的責任	3.2	
1 - 1	子どもの最善の利益を考慮して、最もふさわしい生活の場となっている	4	○今年度の評価の結果から、子ども一人ひとりを大切にし、「子どもを中心に考えた教育・保育」が実践されていることが確認できました。また、子どもの人権を尊重する関わりや、一人ひとりの個性や発達に応じた支援についても概ね良い評価となっています。今後は、さらに子どもの思いや主体性を大切にしたい保育の充実に努めるとともに、職員間で理念や子どもの権利についての理解を深め、子どもたちが安心して生活し、生長できる環境づくりを進めていきます。
1 - 2	子どもの人権に十分配慮するとともに、文化の違いを互いに尊重する心を育てよう日々保育が行われている	3	
1 - 3	性差への先入観による固定的な観念を植え付けないよう日々保育が行われている	3	
1 - 4	子どもの特性や発達の過程に応じ、発達のねらいや方針に即した援助ができています	3	
1 - 5	子どもの主体的な活動を促し、意欲を持って活動できるよう援助ができています	3	
2	保育の配慮事項	3.6	
2 - 1	子どものその時々の気持ちを受けとめて保育が行われている	4	○保育の配慮事項に関する自己評価では、子ども一人ひとりの気持ちに寄り添った関わりや安心して過ごせる環境づくり、個人情報管理の適切な管理、保護者の皆さまからのご意見やご相談への対応について、職員が意識をもって取り組んでいることが確認できました。一方で、入園から就学までの子どもの成長を見通した継続的な支援については、さらに充実を図る必要があります。今後は職員で子どもの育ちを共有しながら、一人ひとりの成長を長期的な視点で支え、より良い教育・保育の提供に努めます。
2 - 2	職員が入園から就学（卒園）までの発達の連続性をイメージ・理解して保育をしている	2	
2 - 3	園内や保育室など、子どもが安心してできる雰囲気を作ることを心掛けて環境を構成している	4	
2 - 4	個人情報の取り扱い方についてマニュアル等が整備され、職員へ理解を促すことが出来ています	4	
2 - 5	保護者のご意見・苦情に対する対応をマニュアル、研修などに手周知されていて、発生時は適切に対応できている	4	
3	計画・評価・育ちの見直し	3.8	
3 - 1	全体的な計画、年間指導計画により、長期的な見直しをもち、職員が共有し、ディスカッションできる場がある	3	○本園では、子ども達一人ひとりの発達や興味・関心に応じた教育・保育計画を作成し、季節や子どもの育ちのつながりを大切にしながら日々の活動を進めています。一方で、年間計画や保育の方向性について、職員間でより丁寧に共有し話し合う機会の充実が課題となっています。これまでも職員間で情報共有を行い、子ども一人ひとりの育ちを大切にしたい教育・保育に取り組んでいますが、今後は職員同士の連携をさらに深めながら、よりよい教育・保育の実現に努めていきます。
3 - 2	保育目標やねらいをベースに、各年齢の子どもの発達状況に配慮した指導計画を作成している	4	
3 - 3	日々の保育の連続性や季節の変化を考慮して、年案、月案、週日案が作成されている	4	
3 - 4	子どもの実態や状況の変化に応じて、保育の振り返り、見直し改善を行っている	4	
3 - 5	職員がチェックリストによる自己評価を実施し、自身の長所や課題を発見し、園長の支援のもと改善に努めることが出来ている	4	
4	特別支援保育	4	
4 - 1	障害のある子どもの特性に合わせた個別支援のための計画を立案している	4	○特別支援保育に関する自己評価は、全項目で評価が高く、個別支援計画の作成や職員研修による専門性の向上、保護者との定期的な面談や信頼関係の構築、就学を見据えた情報提供や相談支援などが継続的に実践されていることが確認できました。今後も一人ひとりの子どもの特性や成長に寄り添いながら、保護者・関係機関と連携し、安心して成長できる支援体制の構築に努めます。
4 - 2	園内外問わず、職員が研修等を通じて障害児保育に必要な知識を得ることができる環境を整えている	4	
4 - 3	障がいのある子どもの保護者と話す場を定期的に設けられ、信頼関係の構築に努めている	4	
4 - 4	障がいのある子どもの保護者に就学など将来の方向に関しての情報提供や相談に応じている	4	
5	乳児保育のねらいと内容	3.6	
5 - 1	発育に応じた行動（立つ、歩くなど）を自発的に進めるような環境づくりをしている	4	○乳児保育の狙いと内容に関する総合評価はやや低いですが、基本的な保育の質は高い評価となっています。発達に応じた環境づくり、離乳食の提供、安全な午睡管理については自信をもって取り組んでいることが確認できました。一方で、感覚を豊かに育む遊びや環境づくり、発声や喃語への丁寧な応答による言葉の育ちへの支援は「3」評価となっており、さらなる充実が求められることがわかりました。今後は乳児期の発達特性をふまえ、子どもの興味や気づきを大切にしたい保育の充実に努めていきます。
5 - 2	離乳食は、保護者、栄養士（調理員含む）と密に連携をとり、子どもの状況に配慮して提供している	4	
5 - 3	午睡中はセンサーの使用問わず、体を仰向けにすることを職員全員が認識し、体温、顔色、呼吸のチェックをしている	4	
5 - 4	生活や遊びの中で、音・形・色・手触りなどに気づかせてさまざまなものに触れさせている	3	
5 - 5	発声や喃語等を優しく受け止め応えることで、言葉の理解や発語の意欲を育てている	3	
6	1～3歳未満のねらいと内容	3	
6 - 1	子どもが自分でやろうとする、出来るようになるところを主体的な気持ちを尊重した保育が展開されている	3	○「自分でやってみよう」という好奇心や主体性を大切にしています。日々の保育の中で、友だちとの関わりや集団生活のルールをそれぞれのペースに合わせて自然に身に付けられるよう工夫しています。職員の経験の差が出る項目ではありますが、園内研修や保育実践マニュアルなどの活用を通じて標準的な対応が身に付けられるよう、職員のスキルアップにつなげ、主体性を大切にする関わりや戸外遊びの様子など、引き続きわかりやすく伝えるための取り組みをしています。
6 - 2	他の子どもとの関わり方や集団生活を発達に応じて身に付けられるよう日々保育が工夫されている	3	
6 - 3	自分の思いを伝えたり、相手の思いに気づいたりする経験を重ねていけるよう援助している	3	
6 - 4	公園や園庭など、積極的に戸外遊びを取り入れて身体発達の促している	3	
6 - 5	感覚の働きを豊かにする遊びや、全身を使う遊びを取り入れられるよう活動内容を工夫している	3	
7	3歳以上児のねらいと内容	3.4	
7 - 1	生活に必要な基本的な習慣や態度が身につくよう、目標やねらいに基づいて保育が展開されている	4	○3歳未満児クラスの全項目及び3歳以上児クラスにおいて高い評価となりました。日頃から子ども達の主体性を尊重し、安全管理や基本的生活習慣の自立、友だちとの関わりを大切にしたい丁寧な保育を意識して実践できるよう努めております。今後は0歳児から就学前のスムーズな育ちの連続性を意識し、園全体で教育・保育の質の向上に努めます。また、日々の工夫や子どもたちの成長の姿を保護者の方、地域の方々にわかりやすくお伝えできる仕組みづくりに努めていきます。
7 - 2	園内外の危険な場所を職員が把握し、安全に気づいて遊ぶように声掛け、働きかけが行われている	4	
7 - 3	友達と遊びを一緒に工夫、協力したり、共に達成感が味わえるように声掛け、働きかけが行われている	3	
7 - 4	生活や遊びの中で、自分の体験や要求を自分なりに表現できるように声掛け、自信、自己肯定感を持てるよう工夫されている	3	
7 - 5	友達との関わりを通して、相手を思いやる気持ちを持てるように声掛け、働きかけが行われている	3	
8	健康支援	4	
8 - 1	職員が、感染症に対する園の方針やマニュアルのポイントを理解し、行動している	4	○感染症対策、食物アレルギー児への誤飲防止対策、及び与薬対応において、職員個々のマニュアル理解と実践が十分に機能していると感じています。これまでの取り組みを維持しつつ、今後はヒヤリハット事例の収集や具体的なシミュレーション等に取り組み、園児一人ひとりの健康と安全を最優先に考えた教育・保育に努めていきます。
8 - 2	健康診断と歯科検診の結果について、保護者や職員同士の共有が速やかに行われている	4	
8 - 3	子どもの出生時から入園までの発育・発達の状況が十分に職員間で共有されている	4	
8 - 4	食物アレルギー児への対応として、誤食が起きないための対策が講じられており、職員が理解している	4	
8 - 5	保護者から与薬の要請を受ける場合や子どもに与薬する場合の対応方法を職員が理解し、適切な処置をしている	4	

令和7年度 あおいこども園施設評価

No.2

No.	評価項目	スコア	所見・取り組み状況
9	食育の推進	3.6	○当園では計画的な食育や食事マナー、アレルギー対応など、ご家庭と連携して進めています。食事計画・食育計画を作成し、各年齢ごとに取り組んでいます。今後は評価が「3」となった、体験活動をさらに充実させていよう、取り組みます。ご家庭と園が一体となった食育の推進に努めていきます。
9 - 1	子どもが意欲的に食に関する体験ができるよう、具体的な食育計画を作成している	4	
9 - 2	乳幼児に身につけておきたい挨拶や姿勢、食具の持ち方など食事のマナーを伝えている	4	
9 - 3	調理員、栄養士、保護者と連携し、ここの食物アレルギーなどの情報共有を定期的に行っている	4	
9 - 4	子どもが栽培、収穫したものや調理したものを食べる機会をつくるように心がけている	3	
9 - 5	園での食育活動をお便りや連絡帳などを活用して保護者に周知することが出来ている	3	
10	安全管理	4	○当園では計画的な食育や食事マナー、アレルギー対応など、ご家庭と連携して進めています。食事計画・食育計画を作成し、各年齢ごとに取り組んでいます。今後は評価が「4」となった、体験活動をさらに充実させていよう、取り組みます。ご家庭と園が一体となった食育の推進に努めていきます。
10 - 1	これまで園内で起こった事故およびヒヤリハットを職員全員が理解し、定期的に報告、共有の場を設けている	4	
10 - 2	睡眠中、水遊び中、食事中などの場面で重大事故が発生しやすいことを職員が認識し、事故防止に努めている	4	
10 - 3	事故防止や安全管理に対する国の方針や園のマニュアルなどが整備され、職員が理解し、実践している	4	
10 - 4	園内の設備、玩具、用具などの点検の仕方、ポイントを職員が理解し実践している	4	
10 - 5	日常的に利用する散歩経路や公園などの異常や危険を察知し、必要に応じて点検している	4	
11	環境・衛生管理	4	○当園では計画的な食育や食事マナー、アレルギー対応など、ご家庭と連携して進めています。食事計画・食育計画を作成し、各年齢ごとに取り組んでいます。今後は評価が「4」となった、体験活動をさらに充実させていよう、取り組みます。ご家庭と園が一体となった食育の推進に努めていきます。
11 - 1	子どもが活動しやすい様に室内の温度、湿度、換気、採光などを適宜調整している	4	
11 - 2	一人一人の子どもの服装、頭髪、爪などを定期的にチェックし、異常があった場合は職員間で共有している	4	
11 - 3	新型コロナウイルスの感染対策を職員が十分に理解し、実践している	4	
12	災害対策	3.6	○当園では、防災方針の周知や避難経路・防災設備の把握において、職員に周知し取り組んでおります。非常時の災害訓練・火災や自然災害による訓練、業務継続計画等に応じて毎月の訓練を実施しております。一方で、災害対応マニュアルのさらなる徹底や保護者の皆様との連絡・引き渡しルールの共有が不十分であります。今後は、定期的な訓練や積極的な情報発信を通じて保護者の皆様と一丸となって、子ども達の安全を守る防災体制に努めてまいります。
12 - 1	災害に対する園の方針などを打ち出し、職員に対して十分に理解を促している	4	
12 - 2	園の災害対応マニュアルが周知されており、それに則り対応できるよう備えが出来ている	3	
12 - 3	消火器、火災受信機、配電盤の設置場所が分かり、操作方法を職員が把握できている	4	
12 - 4	保護者との連絡体制や引渡し方法のルールを明確にしており、保護者とも共有できている	3	
12 - 5	職員全員がハザードマップを理解し、地震や豪雨の際の園から避難場所への適切な避難経路を把握している	4	
13	家庭との連携（在園児）	4	○日頃から子どもたちの関わりについては、全職員で注視・共有し、適切な援助ができる体制を整えています。また、園だよりやクラスだより、ほけんだよりなどを定期的（毎月）に発行し、園での取り組みやお知らせを確実にお届けしております。また、個人面談や送迎時間などで保護者の皆さまと共有できる機会が与えられ、保護者の皆さまが職員とのコミュニケーションを大事していただき、ありがとうございます。引き続き、個々のご家庭との連携を大切にしながら、取り組めるようにします。
13 - 1	保護者のお迎え時、職員は活動内容を伝えるだけでなく、学びや成長の変化を伝えることが出来ている	4	
13 - 2	保護者が、子育ての悩みや心配事を安心して話せる存在になるよう心掛け、対応している	4	
13 - 3	日頃より保護者や子どもの様子を注視し、職員同士で共有する場を設け、虐待の予防や早期発見に努めている	4	
13 - 4	家庭の状況を把握するため保護者と情報交換を行い、必要に応じて関係職員と共有できている	4	
13 - 5	園だより、クラスだより、給食だより、保健だよりなどを、定期的（月1回程度）に発行している	4	
14	家庭との連携（地域）	2.33	○「地域の子どもに関する保育ニーズの把握」「地域交流の機会の確保」については、十分な取り組みができていないことが課題となりました。一方で、地域の子育て相談に関する関係機関の把握については、一定の評価ができ、必要に応じて保護者の皆さまへ情報提供を行う体制を整えております。今後は保護者の皆さまからのご意見やご要望などを伺い、地域のニーズ把握に努め、教育・保育の充実に努めていきます。
14 - 1	関係者評価や自治体など、地域の子どもについての保育ニーズを把握している	2	
14 - 2	保育園の活動や行事に地域の人々の参加を呼びかけるなど、地域交流できる機会を確保している	2	
14 - 3	地域住民から受けた子育て相談の内容について連絡、相談する外部の関係機関を把握している	3	
15	職員の資質向上	3.6	○「諸君の質の向上」に関する評価は平均3.6となり、研修参加や園内研修による学び、保育実践の振り返りなどについて評価ができます。一方で、自己評価を活用した課題改善や園の方針・決定事項への理解促進には課題が見られます。今後は、面談や園内研修を通じて職員一人ひとりの目標を明確にするとともに方針の共有や対話の機会を充実させ、より質の高い教育・保育の実践につなげていきます。
15 - 1	園内・外で行われる研修や会議に職員が積極的に参加し、資質向上を図っている	4	
15 - 2	職員が各々個人の自己評価などで課題を見つけ、その課題の解決に取り組んでいる	3	
15 - 3	職員に対して定期的に保育に関する専門書や関係書を読むなど、保育知識を習得するよう促している	4	
15 - 4	職員の保育実践について、上司や同僚から振り返り、助言をもらえるような機会を設けている	4	
15 - 5	園の決定事項について、職員が納得できるよう十分に理解を促すことが出来ている	3	

スコア比較（大項目別）



本園では、教育・保育の質の向上を図るため、毎年度、施設の自己評価を実施しております。自己評価は、日々の教育・保育や園運営を職員一人ひとりが振り返り、その成果や課題を明らかにすることで、より良い教育・保育の実践につなげることを目的としております。

令和7年度の評価結果では、前年度と比較し、評価の向上が見られる項目が多く、日々の教育・保育の取り組みの成果がうかがえる結果となりました。一方で、一部の項目については評価が低下しており、特に1.「基本的理念と社会的責任」2.「1～3歳未満のねらいと内容」3.「3歳以上のねらいと内容」において、経験年数の浅い職員の自己評価が低い傾向が見られました。今後は、教育・保育要領の内容や各年齢におけるねらいについて理解を深められるよう、日々の保育実践と結び付けながら丁寧な指導・助言を行ってまいります。また、子どもの発達や育ちを踏まえた保育の意図を共有し、自信を持って教育・保育に取り組めるよう支援の充実に努めてまいります。

令和8年6月

社会福祉法人ハイジ福祉会
幼保連携型認定こども園
あおいこども園
園長 知念こずえ